

2023年11月10日

## The Emerging Markets Weekly

### 米経済指標の軟化が追い風も、資源国通貨は前週から反落

**新興国市場:**先週末3日のアジア時間の新興国通貨は堅調。FRBの利上げ終了観測を受けてリスクオンムードが広がり新興国通貨が買われた。KRW や PHP は前日比+1.0%超上昇。欧米時間、米10月雇用統計が市場予想を下振れ、米10月ISM非製造業景気指数も冴えない結果となったことから、米金利低下、全面ドル安。新興国通貨は上昇、BRL や ZAR が値を伸ばした。週初6日、新興国通貨は概ね上昇した。アジア時間から欧州時間にかけては先週末の流れが継続。米国時間に米金利が反発したことを受けてドルも小幅に反発。中南米通貨は弱含んだ。KRWとMYR、IDRは前日比+1.0%超上昇。MXNは下落した。7日、アジア時間の新興国通貨はドル買いが進み、総じて軟調となった。韓国株式市場に連れてKRWも下落。その他、IDRも値を下げた。欧米時間は米金利の低下がみられたものの、ドルは底堅く、新興国通貨の大半は引き続き売り優勢。一方、RUB や MXN、BRL は小幅に上昇した。8日のアジア時間は大半の新興国通貨は小幅な値動き、韓国当局が外国人投資家に対する為替相場への参入障壁を一部撤廃したことを受けKRWの上昇が目立った。欧米時間、米金利が低下したが、商品市況の軟調が新興国通貨の重しとなった。ZAR や BRL が下落。9日、アジア時間はパウエルFRB議長の発言を控え大半が小幅な値動き。欧米時間、パウエル議長が引き締めの可能性を引き続き示唆したことから米金利上昇、ドルが買い戻され新興国通貨は売られた。MXNとZARは前日比▲1.0%超下落した。

**アジア:**2日発表の韓国10月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.8%と市場予想を上振れた。マレーシア中央銀行は3日に政策金利を3.0%に据え置くことを決定した。据え置きは3会合連続。6日に発表されたタイ10月CPIは前年比▲0.3%と市場予想を下回り、21年8月以来のマイナスを記録。同日発表されたインドネシア7~9月期実質GDPは前年比+4.94%と4~6月期から減速、市場予想も下振れた。7日公表のフィリピン10月CPIは前年比+4.9%と市場予想を下回った。同日発表の中国10月貿易収支は565.3億ドルの黒字、輸出が前年比▲6.4%、輸入は前年比+3.0%だった。9日公表の中国10月CPIは前年比▲0.2%と3か月ぶりにマイナス圏に転落。また、10月生産者物価指数(PPI)は前年比▲2.6%と、22年9月以来マイナス圏から浮上せず。同日発表のフィリピン7~9月期実質GDP成長率は前年比+5.9%と市場予想を上振れた。この結果を好感してPHPは小幅に上昇した。

**中東欧・アフリカ:**3日発表のトルコ10月CPIは前年比+61.36%とインフレが制御できない状況は続き、TRYは過去最安値圏での取引となっている。

**ラテンアメリカ:**9日発表のメキシコCPIは前年比+4.26%と市場予想通りの結果となった。インフレは9か月連続で減速。メキシコ中央銀行(Banxico)は9日政策金利を11.25%に据え置くことを決定。据え置きは5会合連続。Banxicoはインフレへの警戒感を弱めており、MXNは会合後に下落した。

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟  
03-3242-7065  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜  
03-3242-7065  
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部  
シニア為替ストラテジスト  
中島 将行  
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

## 市場概観(新興国)

### 製造業における採用意欲の弱まりが加速

金融市場部  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、10月製造業 PMI は 48.8 と 9月(49.2)からは低下し、14か月連続で中立水準(=50)を割り込んでおり、製造業の景況感は明確に下向きだ。先進国(47.4→47.5)は新規受注を中心に上昇も、13か月連続で中立水準割れを記録した。片や、新興国(50.9→50.1)は生産や新規受注を中心に低下も、9か月連続で中立水準超えを維持した(図表 1、2)。また、グローバル非製造業 PMI(50.7→50.4)は5か月連続で低下。内訳を確認すると、先進国(50.1→49.8)、新興国(51.9→51.7)いずれも低下した。

これらを合わせたコンポジット PMI は 50.0 と前月(50.5)から5か月連続で低下も、9か月連続で中立水準超えを維持。世界経済の実質 GDP 成長率は7~9月期に+3.15%(前期比年率)と、前四半期から伸びが加速した(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、足許は減速基調に切り返しているものと考えたい。

10月グローバル製造業 PMI の特徴は、前月に続き雇用指数の低下傾向だろう(図表 4)。10月の雇用指数は、10月に48.7と9月の49.7から低下し、約3年ぶりの低水準を記録した。3月以降は右肩上がりでの推移を続けてきたが、9月以降に大きく反転した格好だ。パンデミック後の極度な人手不足と採用難に対する反省から、製造業需要が下向き中でも採用意欲は一定を保ったが、需要停滞が長期化する中で企業の姿勢にも変化が生まれていると考えられる。

製造業 PMI の構成指数別には、新規受注と入荷遅延指数が PMI の上昇に寄与した。生産指数は、新興国の低下が響き、全体を押し下げた(図表 5)。新規受注は先進国が上昇し、全体では小幅に上昇(図表 6)。ただし、16か月連続の中立水準割れは継続しており、短期の先行きは依然弱い状態が続いている。また、購買品在庫はまちまちの結果(図表 7)。とはいえ、全体では12か月連続で中立水準割れを記録しており、在庫取り崩しの流れは継続中だ。最後に、入荷遅延指数(逆インデックス)は、先進国主導で低下(図表 8)。パンデミック後の供給政策改善には、明白に一服感がある。ただ、製造業需要が弱いことを加味すれば、入荷遅延指数の大幅な低下には至らない可能性が高い。

個別の新興国では、中国製造業 PMI の軟調推移に着目したい。10月には49.5と9月(50.6)から低下し、3か月ぶりに中立水準を割れて推移している。市場予想が50.8だったことを考えれば、予想外に縮小圏に悪化したこととなる。詳細を確認すると、生産指数と購買品在庫指数がヘッドラインの低下に大きく寄与した。公表元のコメントに目を通しても、外需の弱さで生産が伸び悩んだこと、需要停滞を背景に企業が投入財の在庫を減らしたことなどが指摘されている。7~9月期にかけての経済指標は比較的良好なものも多く、同国経済回復を確信した向きもあるだろうが、まだ「踊り場」に位置するというのが実情なのではないか。本格的な回復にはまだ遠いというのが基本的な目線となる。

(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、11月7日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



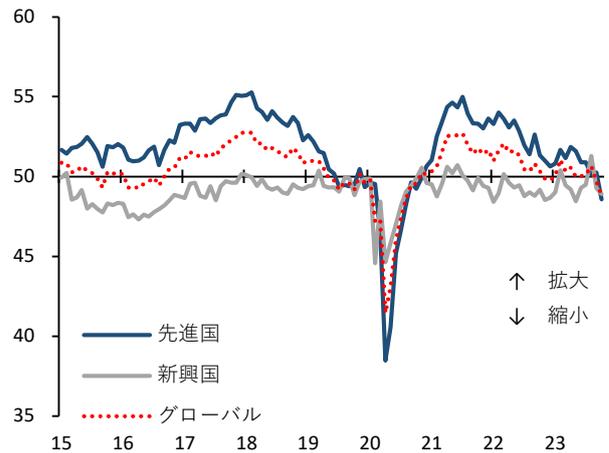
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



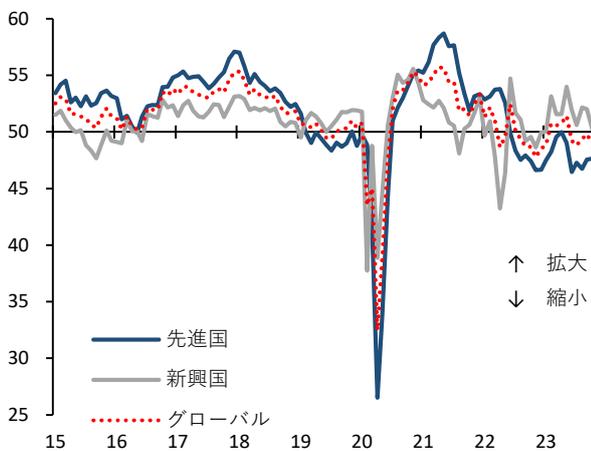
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・雇用指数



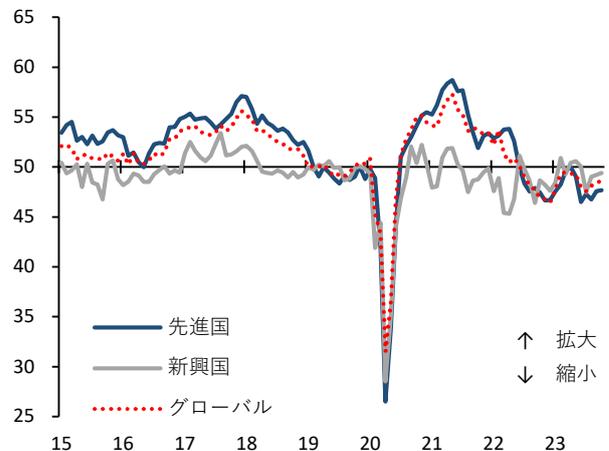
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数



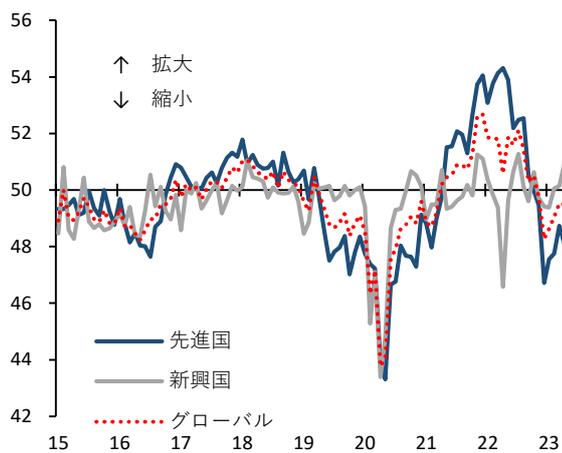
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



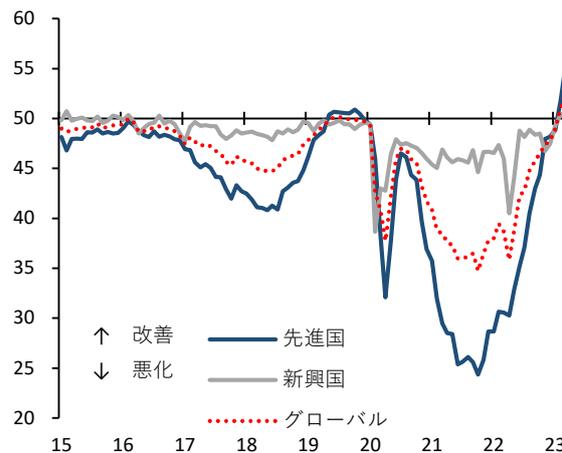
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・購買品在庫指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 製造業 PMI・入荷遅延指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

## 市場概観(中国)

# 対内直接投資が初の流出超を記録、諸外国のデリスクキングの動きが強まる

金融市場部  
マーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

### 7～9 月期経常収支について

3日に公表された国際収支統計によれば、7～9月期の経常収支は+626億ドルと4～6月期の+647億ドルから小幅ながら黒字幅を縮小させた(図表1)。なお、前年同期の+1396億ドルからは大幅に下振れる結果である。4～6月期と比較すれば、第一次所得収支の赤字が縮小したものの、サービス収支赤字が拡大したこともあり、全体としては黒字が縮小した格好だ。サービス収支の内訳を確認すると、旅行収支の赤字幅拡大が目立つ。具体的には、4～6月期の▲379億ドルから、▲489億ドルへ拡大した(図表2)。これは、2019年10～12月期以来の赤字幅となっており、コロナ前の水準におおむね回帰したと判断してよいだろう。

その他、今回の国際収支統計で注目すべきは、何よりも対内直接投資が統計開始以来で初めてマイナスを記録したことであろう(図表3)。4～6月期の国際収支統計において対内直接投資が統計開始以来最低水準を更新したことは本欄でも言及したが、今回はついにマイナス圏(流出超)にまで突入した。なお、対外直接投資も加味した、直接投資全体での流出額(▲658億ドル)も過去最大となっている。米中対立に伴うデカップリングや、グローバルなデリスクキングの潮流は本欄でも重ねて論じてきた事象であるが、今回の国際収支統計はそれらの象徴として評価される。多くの企業が中国への投資を引き揚げ始めていることを示唆するものであり、今後もこのような流れが定着するかに着目したい。当局は外国企業の誘致を奨励する姿勢を示しているものの、同国経済の先行きや改正スパイ法による企業活動への抵触などリスク要因は枚挙に暇がない。

### 10月に輸入は予想外に増加

10月の中国貿易統計の結果は、輸出が前年同月比▲6.4%、輸入が同+3.0%となった(図表4)。また、貿易黒字は+565億ドルを記録した。黒字額は前年同月比で▲31%減少し、市場予想である+820億ドルを下回る結果となった。輸出が市場予想の同▲3.5%を下回り、輸入が市場予想の同▲5.0%に反しプラスとなったことから、全体としては貿易黒字幅が縮小した格好だ。輸出動向に関しては、米国向け(同▲8.2%)やEU向け(同▲12.6%)は9月から大きな変化はなかったものの、日本向け(同▲6.4%→同▲13.0%)の減少幅急拡大が気になるところだ。輸入に目を移せば、予想外にプラス圏を記録したことは注目に値するだろう。輸入がプラス圏に浮上するのは、8か月ぶりのことである。当局や市場が当初期待していたほどのペースではないものの、内需は緩やかながら回復傾向にあるとの評価ができそうだ。この点は今後公表のインフレ関連指標や小売売上高、鉱工業生産の結果も踏まえて判断したい。一方で、10月はCNY建てでの原油輸入額が過去最大を記録している。CNY安の長期化や中東情勢の悪化を踏まえた原油価格上昇の影響もあると見られ、これらの要因も勘案すべきだろう。

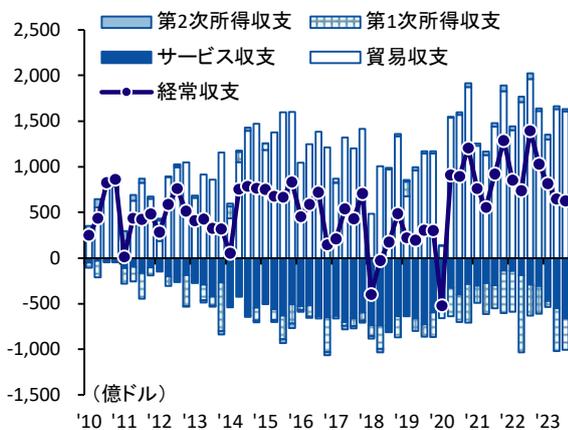
### 11月のCNY相場の動向は？

10月は国慶節を迎えて休場の時間帯もあったが、CNYは概ね7.30～7.32の間での取引となった。7～9月期GDPの結果が市場予想を上回り、年初に政府が目標に掲

げた年間+5%の成長の達成が視野に入ったが、従前からの中国人民銀行(PBoC)によるCNY支援措置や全人代常務委員会が景気支援を意図して1兆元規模の国債を追加発行するなど多方面からの政策アプローチがCNYの大崩れを防いでいる状況にも見える。11月に入り、一部米国経済指標の軟化を受けてCNYも対ドルで持ち直している(図表5)。しかし、直近のFOMCではFRBのタカ派姿勢は当面維持される内容であったのに対して、PBoCは足許の景況感や不動産部門の状況に鑑みて金融緩和を早期に終了する判断には至らないものと考えられる。両国の金融政策は依然対照的で、対米金利差の縮小幅は限定的であると考えたい。

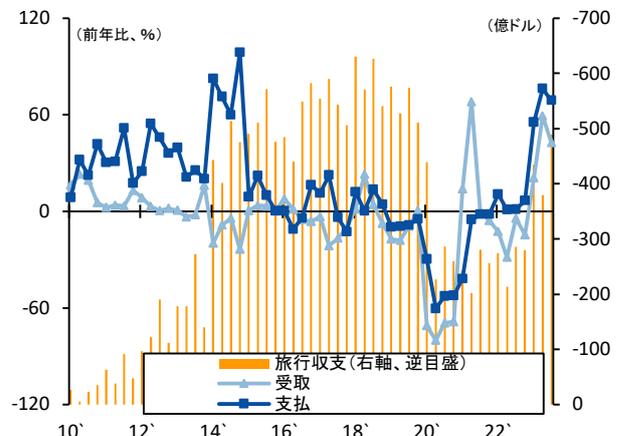
実需面について、景気の先行きが懸念される中で、貿易収支は頭打ちの様相を呈している。また、23年上半期においてゼロコロナ政策解除後も旅行収支の支払が足踏みしていたことはCNYにとってプラスに働いていたが、今後は旅行収支の悪化に起因したサービス収支赤字の拡大は存在感を高めるものと考えられる。もっとも、直近四半期においては旅行収支における支払が5四半期ぶりに前年比でのプラス幅を縮小しており、これを国内の景気減速(≒消費者心理の悪化)の影響と指摘する声もあるが、その動向と合わせて引き続き状況を確認していきたい。この他、諸外国による対中投資は図表3の数字を見ても大きく減速している。先述のデリスクキングに即した動きであるとみられ、中国経済が本格的な減速を避けた場合においても過去の水準に戻ることは困難であると推測される。中国経済に関する懸念が後退すればリスク心理は上向き、CNYの支援材料となろうが、その裏でパンデミックを経て需給環境にも変化が出ている点は為替相場策定の上では無視できない。需給面での逆風は目立たないものの、強まりつつある印象である。

図表1: 経常収支動向



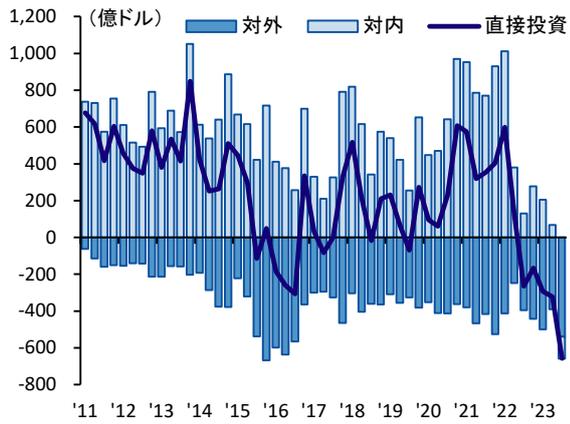
出所: CEIC、みずほ銀行

図表2: 旅行収支動向



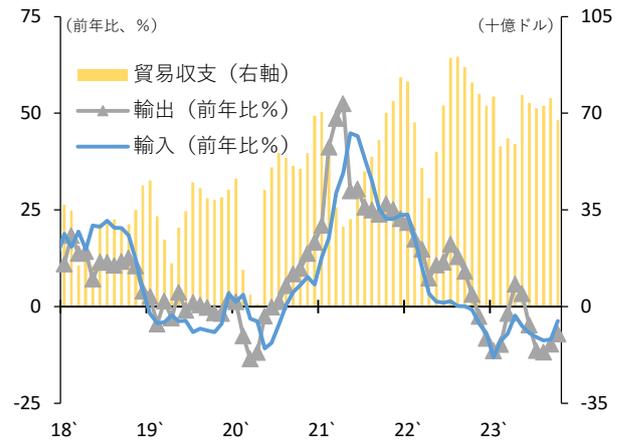
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 直接投資動向



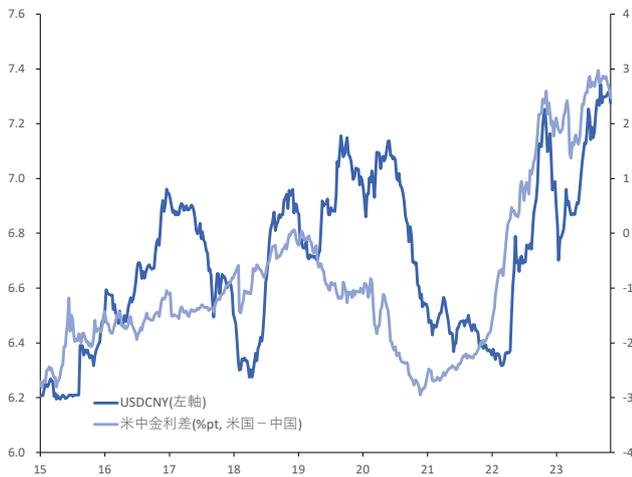
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 貿易統計



出所: Macrobond、みずほ銀行 ※前方3か月移動平均

図表 5: 対米金利差とCNY相場



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 市場概観(メキシコ)

### 利下げ開始を意識し始めた Banxico

金融市場部  
長谷川 久悟  
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

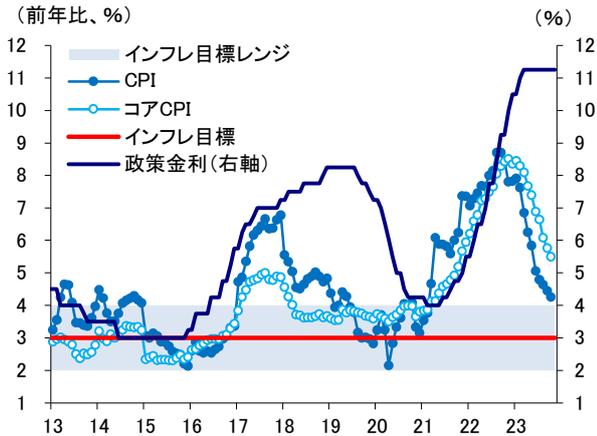
メキシコ中央銀行(Banxico)は9日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を11.25%で据え置くことを全会一致で決定した(図表1)。これは、本欄及び市場予想通りの結果だ。なお、据え置きは5会合連続だ。前回9月会合の議事要旨においても高金利を長期に渡って維持する必要性が強く説かれており、今回会合の注目点も政策決定そのものではなく、声明文の内容といった中身であった。かかる中、声明文では、「インフレ目標を達成するために政策金利を現在の水準にしばらくの間維持することが必要」との政策金利のフォワードガイダンスが記載されており、前回は「長期間」とされていた箇所が「しばらくの間」に変更されている。「より長く」のステージで明確に前進し、利下げ開始を意識し始めた文言変更と考えられる。

懸案のインフレ動向について Banxico は、「デイスインフレの進行を認めた」と好感している。物価動向に関し、消費者物価指数(CPI)は総合ベース、コアベースともに2022年後半にピークアウト、足許では順調に伸びが減速している(図表2)。会合同日に公表された10月CPIは、+4.26%(前年比、以下同様)と9月(+4.45%)から減速した。内訳を確認すると、コア財(+6.20%→+5.64%)がインフレ鈍化に大きく寄与した格好だ。総合ベースでは、Banxicoの目標レンジ(前年比+3%±1%)にあと一歩といった水準だ。鈍化の遅れが目立っていたコアベース(+5.76%→+5.50%)も順調に伸びを減速させており、物価の基調も下向きだ。かかる中、Banxicoはインフレ見通しを小幅に下方修正した。具体的には、総合ベースのCPI見通しに関し、2023年10~12月期から2024年1~3月期にかけての数字がそれぞれ下方修正されている(図表3)。もっとも、インフレ目標近傍に達する時期に関し2025年4~6月期で不変だったことや、コアベースの見通しに変化はないことを考えれば、さほど大きな変更ではない。Banxicoも、見通しの厳しさやインフレのリスクバランスが上方に傾いていることを強調しており、一層のインフレ鈍化を確信しているわけではないようだ。

かかる中、上述の通り、Banxicoはインフレ見通しの下方修正とともに、声明文においては政策金利を維持する期間に関し、上述の通り事実上短縮することを示唆した。もちろん、「しばらくの間」政策金利を維持するとしている以上、例えば次回12月会合における利下げ開始は予測できないが、利下げへの距離感が近くなったのは明白だ。エネルギー価格高騰や予想外に堅調な域内経済活動に伴うインフレ懸念再燃に加え、FRBによるタカ派姿勢の長期化などには警戒を払う必要があるものの、本欄では早ければ2024年1~3月期での利下げ開始をメインシナリオとしたい。

11月に入って以降のMXN相場は、一時17台前半を付けるなど堅調な推移となっている(図表4)。11月FOMCにおけるパウエルFRB議長の発言が警戒されたほどタカ派ではなかったことや、労働市場の緩和を示唆する米10月雇用統計を受けた米金利低下が下支えとなる中、良好な市場心理を背景としたメキシコ株高も追い風となった格好だ。先行きに関しては、上値の重い推移を見込んでいる。Banxicoのタカ派姿勢は有意に後退しており、金利面のMXNの優位性は剥落に向かおう。また、米労働市場も一定の悪化が見込まれ、海外労働送金も勢いを失う公算が大きい。投機筋によるネットのMXN買いポジションも取り崩しが顕著であり、今後も縮小が見込まれる。ただし、米景気や原油価格の動向次第では、MXNが堅調推移する可能性もある。

図表 1: 政策金利とインフレ率



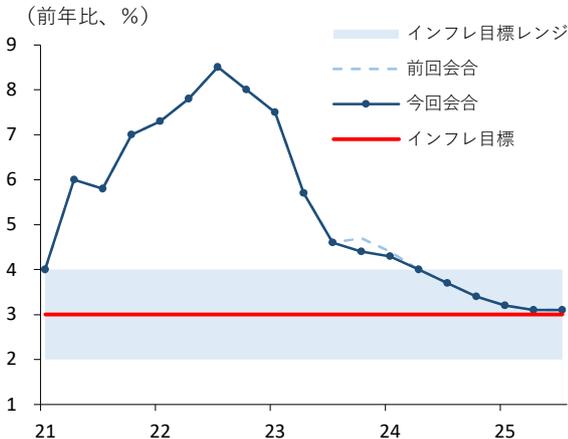
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: CPI の推移



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 3: Banxico の CPI 見通し(総合ベース)



出所: Macrobond、みずほ銀行

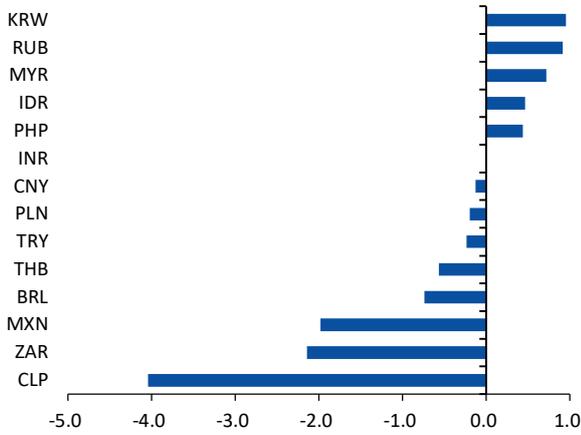
図表 4: MXN 相場



出所: Bloomberg、みずほ銀行

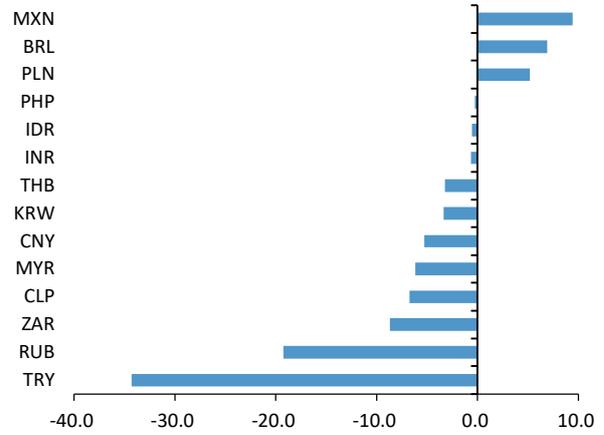
## 資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



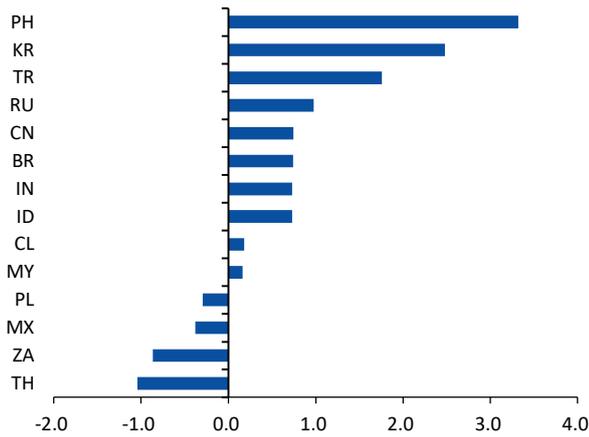
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



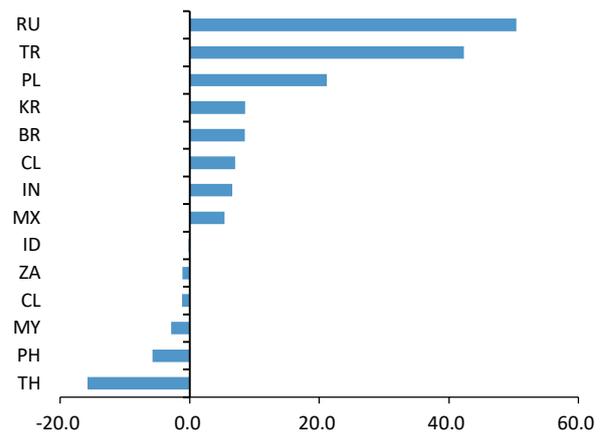
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



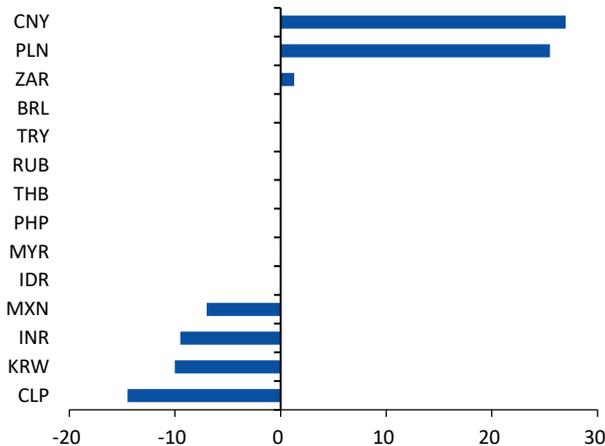
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

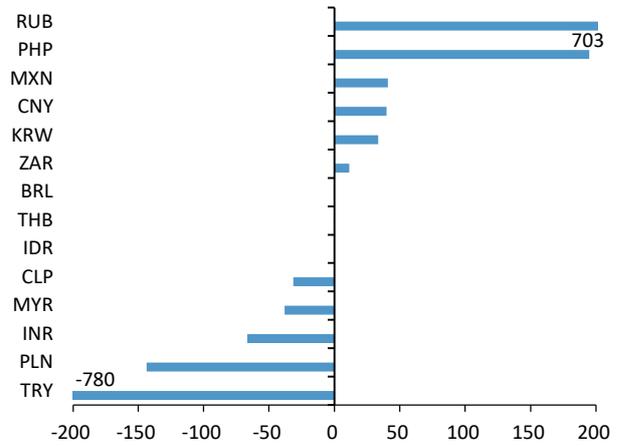
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

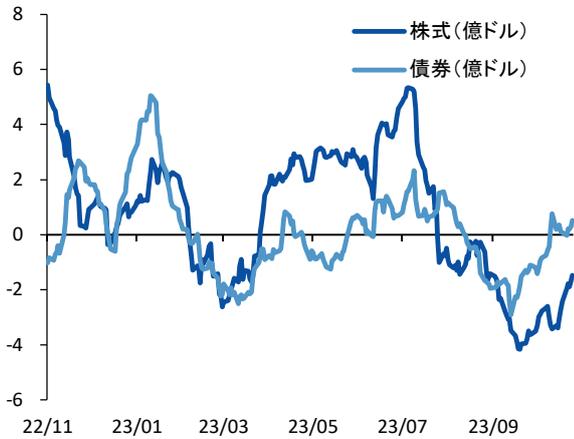


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

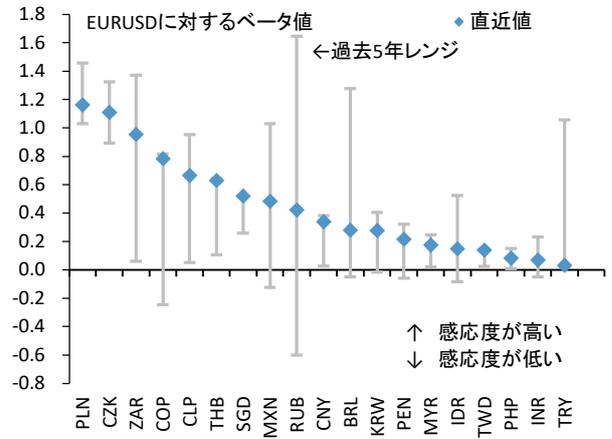
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



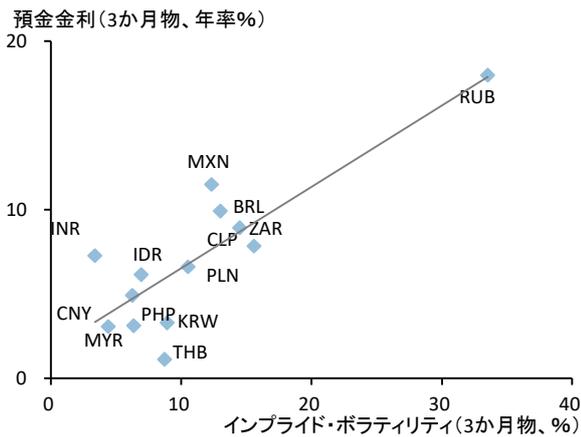
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



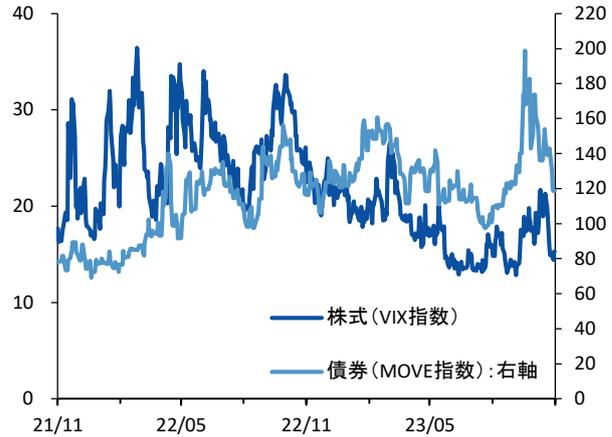
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



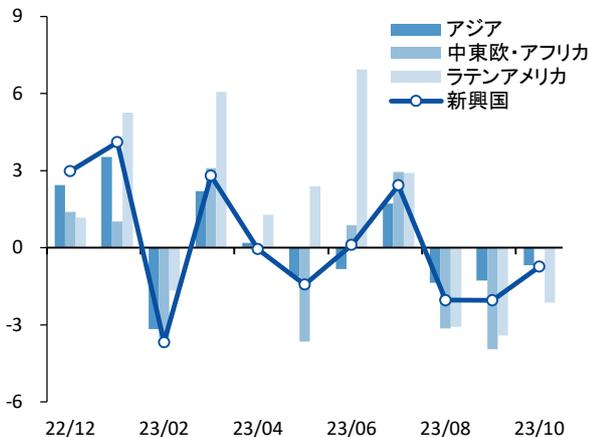
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



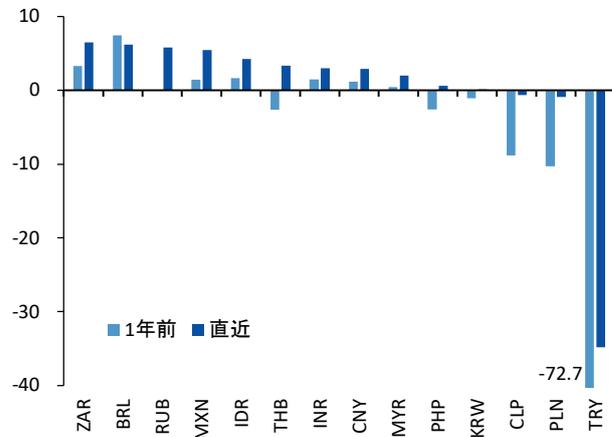
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

## 新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
11月6日 (月)	タイ	CPI(前年比)	0.1%	-0.3%	0.3%	--
6日 (月)	インドネシア	GDP(前年比)	5.0%	4.9%	5.2%	--
7日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	5.6%	4.9%	6.1%	--
7日 (火)	フィリピン	貿易収支	-\$4079m	-\$3511m	-\$4128m	-\$4131m
7日 (火)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	-0.2%	-0.5%	-0.3%	--
7日 (火)	台湾	CPI(前年比)	2.8%	3.1%	2.9%	--
7日 (火)	台湾	貿易収支	\$8.89b	\$5.77b	\$10.32b	--
7日 (火)	中国	貿易収支	\$81.90b	\$56.53b	\$77.71b	\$77.83b
8日 (水)	韓国	国際収支:経常収支	--	\$5420.7	\$4809.8m	\$4984.6m
9日 (木)	中国	CPI(前年比)	-0.1%	-0.2%	0.0%	--
9日 (木)	中国	PPI(前年比)	-2.7%	-2.6%	-2.5%	--
9日 (木)	フィリピン	GDP(前年比)	4.7%	5.9%	4.3%	--
10日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	6.8%	--	10.3%	--
13日 (月)	インド	CPI(前年比)	4.6%	--	5.0%	--
13-15日	インド	輸出(前年比)	--	--	-2.6%	--
13-15日	インド	輸入(前年比)	--	--	-15.0%	--
14日 (火)	インド	卸売物価(前年比)	-0.3%	--	-0.3%	--
15日 (水)	中国	鉱工業生産(前年比)	4.5%	--	4.5%	--
15日 (水)	中国	小売売上高(前年比)	6.5%	--	5.5%	--
15日 (水)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.2%	--	3.1%	--
15日 (水)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$3420m	\$3418m
15日 (水)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	--	--	2.7%	--
16日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	6.50%	--
17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-13.2%	--
17日 (金)	マレーシア	GDP(前年比)	--	--	3.3%	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
11月9日 (木)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-2.6%	-4.3%	1.6%	1.5%
10日 (金)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	2.8%	--	3.1%	--
10日 (金)	ロシア	貿易収支	--	--	11.0b	--
11日 (土)	ロシア	CPI(前年比)	6.7%	--	6.0%	--
13日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	-0.62b	--
15日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	-0.5%	--
16日 (木)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	4.9%	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
11月6日 (月)	ブラジル	経常収支	-\$1350m	-\$1375m	-\$778m	-\$740m
6日 (月)	ブラジル	海外直接投資	\$4550m	\$3752m	\$4270m	--
7日 (火)	ブラジル	融資残高	--	5524b	5524b	--
8日 (水)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	0.5%	0.5%	0.5%	--
8日 (水)	ブラジル	純債務対GDP比	59.8%	60.0%	59.9%	--
8日 (水)	ブラジル	小売売上高(前年比)	2.4%	3.3%	2.3%	--
9日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	4.3%	4.3%	4.5%	--
9日 (木)	メキシコ	オーバーナイト・レート	11.25%	11.25%	11.25%	--
10日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	4.9%	--	5.2%	--
10日 (金)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	4.3%	--	5.2%	--
14日 (火)	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	--	4.8%	--
16日 (木)	ブラジル	経済活動(前年比)	0.8%	--	1.3%	--

注: 2023年11月10日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

## 為替相場見通し

	2023年 1～10月(実績)	SPOT	2023年 12月	2024年 3月	6月	9月	12月
<b>対ドル</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民元 (CNY)	6.6910 ~ 7.3503	7.2847	7.20	7.20	7.15	7.10	7.05
香港ドル (HKD)	7.7920 ~ 7.8500	7.8088	7.84	7.84	7.83	7.81	7.78
インドルピー (INR)	80.883 ~ 83.286	83.289	82.9	83.5	84.5	83.5	82.0
インドネシアルピア (IDR)	14565 ~ 15969	15655	15400	15250	15580	15710	15670
韓国ウォン (KRW)	1216.30 ~ 1363.67	1309.83	1340	1330	1310	1290	1270
マレーシアリング (MYR)	4.2250 ~ 4.7937	4.6930	4.75	4.66	4.72	4.68	4.61
フィリピンペソ (PHP)	53.628 ~ 57.084	55.860	57.0	55.9	55.5	57.2	56.0
シンガポールドル (SGD)	1.3032 ~ 1.3764	1.3598	1.37	1.37	1.38	1.36	1.35
台湾ドル (TWD)	29.608 ~ 32.509	32.271	32.0	31.8	31.5	31.0	30.5
タイバーツ (THB)	32.57 ~ 37.24	35.76	35.7	36.0	36.5	35.5	35.0
ベトナムドン (VND)	23415 ~ 24620	24353	24450	24300	24500	24100	24000
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	67.0415 ~ 102.3371	91.8547	92.0	90.0	88.0	90.0	92.0
南アフリカランド (ZAR)	16.6950 ~ 19.9204	18.6632	19.5	20.0	19.8	19.6	19.4
トルコリラ (TRY)	18.4339 ~ 28.6244	28.5254	29.0	30.0	29.0	28.0	27.0
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	4.6967 ~ 5.4798	4.9394	5.10	5.05	5.12	5.17	5.20
メキシコペソ (MXN)	16.6262 ~ 19.5882	17.8237	17.8	18.2	18.5	18.7	19.0
<b>対円</b>							
<b>エマージングアジア</b>							
中国人民元 (CNY)	18.793 ~ 20.734	20.750	21.11	21.25	20.98	20.85	20.57
香港ドル (HKD)	16.295 ~ 19.393	19.379	19.39	19.52	19.16	18.95	18.64
インドルピー (INR)	1.559 ~ 1.822	1.817	1.83	1.83	1.78	1.77	1.77
インドネシアルピア (100IDR)	0.831 ~ 0.969	0.967	0.987	1.003	0.963	0.942	0.925
韓国ウォン (100KRW)	9.915 ~ 11.231	11.553	11.34	11.50	11.45	11.47	11.42
マレーシアリング (MYR)	29.106 ~ 31.886	32.176	32.00	32.83	31.78	31.62	31.45
フィリピンペソ (PHP)	2.325 ~ 2.648	2.702	2.67	2.74	2.70	2.59	2.59
シンガポールドル (SGD)	96.55 ~ 110.75	111.26	111.19	111.43	108.70	108.66	107.17
台湾ドル (TWD)	4.205 ~ 4.679	4.685	4.75	4.81	4.76	4.77	4.75
タイバーツ (THB)	3.770 ~ 4.207	4.232	4.26	4.25	4.11	4.17	4.14
ベトナムドン (10000VND)	0.5430 ~ 0.6173	0.6199	0.62	0.63	0.61	0.61	0.60
<b>中東欧・アフリカ</b>							
ロシアルーブル (RUB)	1.422 ~ 1.948	1.648	1.65	1.70	1.70	1.64	1.58
南アフリカランド (ZAR)	6.909 ~ 8.139	8.108	7.79	7.65	7.58	7.55	7.47
トルコリラ (TRY)	5.108 ~ 7.482	5.291	5.24	5.10	5.17	5.29	5.37
<b>ラテンアメリカ</b>							
ブラジルレアル (BRL)	23.723 ~ 30.506	30.668	29.80	30.30	29.30	28.63	27.88
メキシコペソ (MXN)	6.651 ~ 8.778	8.491	8.54	8.41	8.11	7.91	7.63

注:1. 実績の欄は2023年10月31日まで。SPOTは11月10日の7時20分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。